



創立1949年（昭和24年） 高松中学校は今年度で76周年を迎えました。

シンガポールのSDGs

本校では総合的な学習の時間を中心に SDGsについて探究的な学習を進めています。1年生は先月の野辺山方面への移動教室に向けて、「長野県の SDGs」について調べ、現地で主体的な学習発表会を行いました。2年生は昨年度 SDGsの視点から、海外の方と共生するための取組や課題をまとめた経験をふまえて、今年、高輪ゲートウェイシティに新しくできたシンガポール国立大学の留学生と交流を行う際に、自分たちの住む港区についてのエリアマップをグループごとにプレゼンする授業を行いました。そして、3年生は先日 6/16～20 に修学旅行でシンガポールに行き、海外で実際に行われている SDGsについての取組を肌で感じることができました。二つの例について紹介します。

一つめは、宿泊したホテルです。各部屋のカードキーは「木」、部屋の歯ブラシは「竹」製でした。洗面台には通常の手や顔を洗うための蛇口と飲料用の蛇口が別々なことに、必要な水にだけ殺菌ろ過を施す合理性を感じました。部屋にある持ち運びのできる水筒はガラス製で、館内には PET ボトル飲料を置いている売店や自動販売機は1台もありません。プラスチックを極力排除するこだわりを感じました。プラスチックは自然に分解されないの、細かくなっても自然界に残ってしまうことが2日目のシロソビーチでのマリコンサーブで実感できました。また、ホテルの中庭には魚を養殖する大きな水槽があり、すぐ横には野菜を育てている温室がありました。これはアクアポニックスといって、日本でも増えつつある、魚と植物を同じシステムで育てる新しい養殖・栽培方法です。養殖している魚の排泄物を温室へ送り細菌が分解、それを栄養分として植物が光合成をおこない、きれいになった水が水槽へ戻るといった循環型の農法です。レストランの朝食ビュッフェには美味しいサーモンと新鮮なサラダ用の野菜や果物が並んでいました。

二つめは、4日目に訪れたシンガポール動物園です。檻がなく、動物の生育と人間の見学が同じ環境の下を実現している動物園でした。園内のトラムも園内の再生可能エネルギーで発電した電気自動車によるものでした。シンガポールでは雨水をためるための貯水池がたくさん作られています。この動物園も貯水池に隣接しています。貯水池は洪水を防ぐ目的もありますが、雨水や廃水をリサイクルして園内にあるたくさんの植物の生育に有効活用されています。また、廃棄物ゼロを目指しているので、人間の食べ残しなどを機械で粉碎、ミミズなどの虫を使って分解させて肥料にしています。持続可能な運営のために資源を大切に管理している様子がわかりました。



「クラウドフォレスト（近未来型の植物園）」では、再生可能エネルギーによって発電された時の熱を交換機で冷却、除湿して館内を冷やしています



港区立高松中学校 X
(旧 Twitter)

学校生活のようすなどを X にて発信しています。
学校 HP の学校ブログと合わせてご覧ください。